

評価の視点	評価対象施設	評価内容 (★一指定期間10年としたことを踏まえた評価実施)	評価材料	プレゼンテーション説明内容の概要 (説明のポイント、評価してもらいたポイント等) ※事前に指定管理者が記入	評価 (◎：優れている、○：標準的 △：改善余地あり ×：抜本的な改善が必要)						評価員コメント	
					A評価員	B評価員	C評価員	D評価員	E評価員	G評価員	現状における課題点	今後の取組の方向 (強みを伸ばす、弱みを改善する方策等)
住民の平等な利用の確保	共通	利用者の平等な利用が確保されているか、一部の利用者への偏りはないか	・たづくり指定管理者事業計画書（以下「計画書」）P39 ・財団ホームページ	たづくり条例に基づき、施設予約システムによる平等な条件での抽選。	○	○	○	○	○	○	<評価できる点> ・【3館共通】利用者の声を反映し、誰もが利用しやすい管理運営に取り組んでいる。	
	共通	年齢や障害の有無等に関わらず、誰もが利用しやすいように工夫している（バリアフリー対応等、福祉の視点を持った来館者への対応がなされているか）	・令和元年度事業報告書P17 ・令和2年度事業報告書P16 ・財団ホームページ	・施設のバリアフリー化 手すり設置、トイレ洋式化 ・職員のダイバーシティ意識向上研修の実施 ・音声ガイド、集団補聴、同行支援等の鑑賞サポートを行う映画上映会や、障害者が出演者となる場合を想定したサポート研修を実施。 ・市民文化ボランティア「アートサポートーズ」も接客研修の一環でサポート方法を学習	◎	◎	○	◎	◎	○		
利用の促進及びサービスの向上に向けた取組	共通	利用者にとって分かりやすい施設利用案内や事業等に関する情報提供が行われているか。また、施設や事業等の情報について、広報誌以外の多様な方法で広報を行っているか。	・令和元年度事業報告書P27 ・令和2年度事業報告書P25～26 ・令和3年度事業報告書P24～25	◆施設や事業の情報提供 ・財団報はれっと 毎月1回発行 市内各戸配付 ・ホームページでの情報提供 ◆広報誌以外の方法 ・デジタルサイネージ ・メールマガジン ・SNS（ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、youtube） ・コミュニティFM デジタルの即時性、紙媒体の視認性の高さなどの特性に合わせて、対象者の年代と内容に合わせた広報を展開	○	◎	○	○	○	○	<評価できる点> ・【3館共通】複数手法を活用して利用者からの意見を要望を把握し、可能なものは迅速に対応したうえで対応結果をホームページ等で公表するなど、丁寧な対応により改善に努めている。 <課題点> ・【3館共通】利用者懇談会について、参加者が固定化しているようであれば、開催回数の見直し等多様な意見を収集する方法の協議・検討が必要だと考える。 ・利用者の声への対応について、条例に定められていることを理由に減額対応ができないと回答しているのが見られた。 ・エレベーターがあるが、それを使って良いか分からない方がいる。エレベーターの周知を徹底すると良い。	・利用料金の在り方についての利用者の声に対し、合理性が認められる場合は、必要に応じて市に提案する姿勢が望まれる。 ・市との連携については、定例の協議会を実施するなど、検討状況が記録として残るような運営の仕組みが望まれる。
	共通	利用者の意見・要望を受け止め、施設の管理運営に反映させる仕組みを有しているか。また、利用者の声について、市と適切な情報共有を図り、効果的・効率的な対応手法を市に提案する等、課題解決に向けて適切に対応できているか	・令和3年度事業報告書P16、59 ・財団ホームページ	◆利用者の意見を施設管理運営に反映させる仕組み ・意見・要望の対応・結果の情報共有と財団ホームページでの公表。 ・利用者懇談会の年2回の開催。 ・市の所管部署と毎月定例ミーティング情報共有 ◆令和3年度施設利用率 ホール系施設 7.5% 会議室系施設 5.8%	○	◎	△	○	○	○		
	共通	利用者アンケートを実施しているか。また、アンケート結果について結果は良好か。併せて、利用者ニーズを踏まえて対応の見直しや工夫など、利用者満足度の向上に向けた取組が行われているか	・令和3年度事業報告書P16、59 ・財団ホームページ	◆利用者アンケート（令和3年度） 施設利用者満足度 97.2% ・利用者の要望から改善させた事例 窓口でのキャッシュレス支払導入 和式トイレへの手すり設置	○	◎	○	◎	○	○		・和式トイレは、洋式トイレに変更した方がよい。 ・地下2階練習室は、吸音材ばかりなので1室でも響きがあるようになる。よい。 ・これからのwith/afterコロナにおける、利用率の目標設定およびその実現が問われる。

評価の視点	評価対象施設	評価内容 (★1指定期間10年としたことを踏まえた評価実施)	評価材料	プレゼンテーション説明内容の概要 (説明のポイント、評価してもらいたポイント等) ※事前に指定管理者が記入	評価 (◎：優れている、○：標準的 △：改善余地あり ×：抜本的な改善が必要)						評価員コメント	
					A評価員	B評価員	C評価員	D評価員	E評価員	G評価員	現状における課題点	今後の取組の方向 (強みを伸ばす、弱みを改善する方策等)
	共通	施設の管理と事業の運営を一体的に行うことにより、事業の充実が図られ、施設の設置目的が効果的に達成されているか	・令和元年度事業報告書P35 ・令和2年度事業報告書P33 ・令和3年度事業報告書P32	◆施設管理と事業の一体的運営によるスケールメリット ・ラグビーワールドカップ2019バブルックビューイング、東京2020大会機運醸成のエンタランス壁画装飾等の様々な事業 (事業)⇒相乗効果⇒(施設) ・施設のお朽化による改修計画 ・施設管理者としての知識やノウハウを市に積極的に提供	◎	◎	○	○	○	○	<評価できる点> ・【3館共通】市の充実した文化活動の担い手であり、市のブランド価値を高める役割という自負を持って運営に当たっている。 ・【3館共通】専門人材を抱えているゆえに中長期視点での施設維持施策が実現できていると思われ、素晴らしい。	・【3館共通】指定管理期間が10年間となったことを踏まえた事業展開・充実を図ることが必要。 ・【3館共通】3施設の規模・内容は異なるが、他の施設の管理や事業展開で得た知識や経験を更に生かすよう取り組むべき。 ・【3館共通】3施設の一元管理によりコスト抑制がどの程度できたかを可視化していただけるとよい。
	共通 【せんがわ劇場以外】	企画から実施に長期間を要する新たな事業の実施や、長期的な視点による計画的・段階的な事業展開など、指定管理期間が10年間になったことを踏まえた事業の充実・成熟化が図られ、施設の設置目的が効果的に達成されているか(★)	・令和2年度事業報告書P33 ・別添「調布巡回アートプロジェクト」報告冊子	◆長期の視点を踏まえた時間的スケールメリット ・地域、学校、協賛機関等との連携には短期間での成果向上は難しい →指定管理期間が10年間になったことにより、継続性を重視した企画・運営が可能となりました	○	○	○	◎	△	○	・指定管理期間が10年間になった長所を生かし、これまで培ってきた地域団体等との連携により地域に根差した財団として、また3館の指定管理者として、その強みを生かした事業展開に取り組んでいる。 ・エンタランスやエレベーターホールを活用した壁画装飾等により、施設利用者だれもが芸術・文化を体感できるように工夫している。 ・年齢、性別、障害の有無にかかわらず多様な市民が参加できる事業展開を図っている。引き続き、施設利用者だれもが、芸術・文化に身近に触れ、興味を持つきっかけづくりを図っていただきたい。	・【3館共通】企画立案などの事業における3館の運動性について、組織的・地理的な縦割りを排除するとより効果的な事業運営になる。継続的な取組、今後の一層の推進に期待。 ・【3館共通】10代・20代の若い方々により関心を持ってもらえるような斬新なプログラムやイベントがあるとうい。 ・【3館共通】なんとなく足を運ぶような、若年層も含めた、まちの交流拠点になるような取組があると、さらに良い施設になると思われる(テーブル、Wi-Fi、コンセントなどの設置・開放)。 ・【3館共通】調布～山川も、まちの至る所で野外演奏がある音楽の都ウィーンのようなとうい。演奏家や学生にとって市民の前の演奏こそ一番大切。 ・【3館共通】デジタル化という視点での改善が必要。
	文化会館たづくり	さまざまな芸術・文化活動ができる複合施設であるたづくりを中心に、誰もが学習や鑑賞の機会に触れ、親しむことができるよう、幅広く普及・啓発事業に取り組んでいるか。	・令和元年度事業報告書P29-35 ・令和2年度事業報告書P27-32 ・令和3年度事業報告書P26-31	◆学習鑑賞機会の提供(普及・啓発事業) ・ちょうふ市民カレッジ ・保育付き講座 オンライン講座 ・美術展示ワークショップ ・歌舞伎舞台の裏側体験	○	◎	○	◎	○	○	・エンタランスやエレベーターホールを活用した壁画装飾等により、施設利用者だれもが芸術・文化を体感できるように工夫している。 ・年齢、性別、障害の有無にかかわらず多様な市民が参加できる事業展開を図っている。引き続き、施設利用者だれもが、芸術・文化に身近に触れ、興味を持つきっかけづくりを図っていただきたい。	・【3館共通】10代・20代の若い方々により関心を持ってもらえるような斬新なプログラムやイベントがあるとうい。 ・【3館共通】なんとなく足を運ぶような、若年層も含めた、まちの交流拠点になるような取組があると、さらに良い施設になると思われる(テーブル、Wi-Fi、コンセントなどの設置・開放)。 ・【3館共通】調布～山川も、まちの至る所で野外演奏がある音楽の都ウィーンのようなとうい。演奏家や学生にとって市民の前の演奏こそ一番大切。 ・【3館共通】デジタル化という視点での改善が必要。
	文化会館たづくり	人々が自然に集い、つながるたづくりを拠点に、地域の芸術・文化に関する情報を積極的に収集・発信し、調布の魅力を広くPRできているか	・令和元年度事業報告書P25-30	◆市民のふれあい・交流の場 ・小さな小さな音楽会 ・市民文化祭 →市民が自らの芸術・文化活動や学習活動の成果を発表し、相互理解、コミュニティの形成を推進 【文化プラットフォームの形成】 文化ボランティア(ちょうふアートサーターズ) 調布国際音楽祭ボランティア(CIMF)	◎	◎	○	○	○	○	<課題点> ・地域との連携について、今後に期待できるとは言え、現状では目に見える成果が上がっていないといえる。	・【3館共通】調布～山川も、まちの至る所で野外演奏がある音楽の都ウィーンのようなとうい。演奏家や学生にとって市民の前の演奏こそ一番大切。 ・【3館共通】デジタル化という視点での改善が必要。
	文化会館たづくり	市民のふれあい・交流の場をつくり、社会参加の機会を開くことで、活気あふれる地域コミュニティの創造と再生を推進できているか	・令和2年度事業報告書P23-25、28 ・令和3年度事業報告書P21-23、27	◆文化プラットフォームの形成と発展を通じて、芸術・文化のみならず、観光、福祉、教育、産業など関連分野における多彩な人材・団体と持続的に連携・協働することで、ユニークで心豊かな調布の街づくりに資する取組が行われているか	○	◎	○	◎	○	○	・【3館共通】調布～山川も、まちの至る所で野外演奏がある音楽の都ウィーンのようなとうい。演奏家や学生にとって市民の前の演奏こそ一番大切。 ・【3館共通】デジタル化という視点での改善が必要。	
事業計画の内容	文化会館たづくり	東京2020大会の機運醸成とレガシー継承へ向けた取組が、実施・企画されているか	・令和元年度事業報告書P12-13、29、31、35 ・令和2年度事業報告書P28-29、33 ・令和3年度事業報告書P30-32	◆東京2020大会の機運醸成 ・たづくりアスリートワンダーウォール ・令和元年～3年間継続して実施 ・調布音楽odyssey(新作能) ・伝統芸能を分かりやすく発信 3カ年で実施	◎	○	○	◎	○	○	・【3館共通】調布～山川も、まちの至る所で野外演奏がある音楽の都ウィーンのようなとうい。演奏家や学生にとって市民の前の演奏こそ一番大切。 ・【3館共通】デジタル化という視点での改善が必要。	
	文化会館たづくり	共生社会の充実や多文化共生の推進に向けて、これまで取り組まれてきた内容は効果的であるか。また、今後更なる充実を図るための具体的な方策が考えられているか	・令和元年度事業報告書P11 ・令和2年度事業報告書P10 ・令和3年度事業報告書P11、24	◆東京2020大会のレガシーと共生社会充実 ・財団独自テーマ「10年後の君へ。」 次世代へ明るい未来と夢を残すことをテーマとし、地域との連携・協働、伝統文化継承、芸術家・鑑賞者の育成に長期的視野で取り組む ・共生社会の実現 市と共催「バラアート展」 →今後も年齢、性別、障害の有無にかかわらず多様な市民が参加できる事業を展開	◎	○	○	○	○	○	・【3館共通】調布～山川も、まちの至る所で野外演奏がある音楽の都ウィーンのようなとうい。演奏家や学生にとって市民の前の演奏こそ一番大切。 ・【3館共通】デジタル化という視点での改善が必要。	
	文化会館たづくり	他の類似施設や施設運営団体における取組も参考にしながら、社会潮流(平均寿命の伸長や、デジタル技術の進歩等)や利用者ニーズを的確に捉え、事業展開につなげられているか	・令和2年度事業報告書P25、26、27 ・令和3年度事業報告書P31	◆社会課題や利用者ニーズをとらえた事業展開 ・新型コロナウイルス感染拡大 ・来館せずとも参加できるアクセシビリティ向上 オンライン講座、動画配信の実施 【デジタル技術の進歩に後押しされた新しい事業展開】 ◆たづくりESCO事業による省エネルギー、コスト削減 長期の改修計画、省エネへの取り組みを行う中で、設備更新型ESCO事業(効果保証を伴う省エネルギー改修)を調布市に提言し、実施につなげました。 省エネ効果 3.0%以上	○	◎	○	◎	△	○	・【3館共通】調布～山川も、まちの至る所で野外演奏がある音楽の都ウィーンのようなとうい。演奏家や学生にとって市民の前の演奏こそ一番大切。 ・【3館共通】デジタル化という視点での改善が必要。	
	文化会館たづくり	たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場の3館連携による、それぞれの特性を生かした、効果的で全体的な視点での事業展開が図られているか	・令和元年度事業報告書P18-20 ・令和2年度事業報告書P17-18、33 ・令和3年度事業報告書P17-18	◆3館連携による全体的な事業展開 ・調布国際音楽祭 ・巡る・アートプロジェクト(令和2年度)	○	◎	○	◎	○	○	・【3館共通】調布～山川も、まちの至る所で野外演奏がある音楽の都ウィーンのようなとうい。演奏家や学生にとって市民の前の演奏こそ一番大切。 ・【3館共通】デジタル化という視点での改善が必要。	

評価の視点	評価対象施設	評価内容 (★一指定期間10年としたことを踏まえた評価実施)	評価材料	プレゼンテーション説明内容の概要 (説明のポイント、評価してもらいたポイント等) ※事前に指定管理者が記入	評価 (◎：優れている、○：標準的 △：改善余地あり ×：抜本的な改善が必要)						評価員コメント	
					A評価員	B評価員	C評価員	D評価員	E評価員	G評価員	現状における課題点	今後の取組の方向 (強みを伸ばす、弱みを改善する方策等)
指定管理業務に関する収支の状況	共通	指定管理期間が10年間になったことを踏まえた、長期的視点での利用料金収入等の確保や支出の抑制についての取組（工夫・見直し等）が行われているか(★)		◆長期的視点での収支の取組 ・施設管理の委託業務について仕様変更し費用削減 ・利用料金収入、施設利用率は頭打ち→有効活用を模索していく	○	○	△	○	△	○	<評価できる点> ・【3館共通】助成金の獲得に向け積極的に取り組んでおり、助成金獲得のノウハウの組織的蓄積は高い評価に値する。引き続き、様々な団体等による助成金及び補助金制度に関する情報収集を幅広く行い、資金獲得に努めて頂きたい。 <課題点> ・【3館共通】事業報告の内容がわかりづらい。収支改善の分析が難しくなると考える。 ・【3館共通】コロナ禍において、利用料金収入が大幅に減少し、指定管理料の増額（公費負担）に対応する状況が続いている。外部環境の変化に伴う収入確保対策は課題と考える。 ・【3館共通】寄附金については、収入規模から比較すると少ない印象。自己収入獲得策が課題。 ・指定管理料が5.2億円と非常に大きい。	・【3館共通】積極的にコストカットするという目標を持って取り組むべき。 ・【3館共通】支出の内訳を常に見ることで、改善の余地がないか検討していくべき。 ・【3館共通】利用料金の在り方に関する検討・見直しを積極的に行い、必要に応じて市に提案する姿勢が望まれる。 ・【3館共通】ファンドレイジングの評価が必要。個人からの寄付や企業協賛をもらえないかなど、収入の柱になるものについても検討の余地あり。 ・【3館共通】指定管理期間延長により、投資回収の考え方が導入しやすくなる。そういった検討もしていただきたい。 ・【3館共通】利用率の低い施設は、多目的利用を可能とする施設に改修したり、無料貸出スペースとしてもよいのではないかな。 ・水木しげる氏の企画展など、非常に集客力のある企画展示を実施していた。有料にしないとしても、寄附等の活動支援を求める取組を企画することも有用。
	共通	補助金の獲得など、自主財源の確保に努めているか。また、それを事業展開につなげているか	・令和元年度事業報告書P110、118 ・令和2年度事業報告書P103、111 ・令和3年度事業報告書P97、105	◆自主財源確保への取組 ・企業協賛金の獲得 よきこい シネマフェスティバル 国際音楽祭 令和元年 97万円 →令和2年0円 →令和3年 23万円 ・寄附金 来場者からの募金 ノベルティグッズ販売 ・助成金の獲得（文化庁、民間財団等） 令和元年1300万円→令和2年1100万円→令和3年1680万円 【背景】全国の公共劇場での激しい獲得競争 助成金の枠組みに合わせた事業企画立案は、職員のたゆまぬ努力の成果 長期的指定管理による安定的な人材育成が効果を上げている	◎	○	△	○	○	○		
安定した運営が可能となる人的能力及び体制	共通	施設の管理に、人員が適切に配置されているか	・たづくり自衛消防隊組織編	◆施設管理の適切な人員配置 警備、受付、舞台、清掃などの要職業者も合わせ、安全・安心な施設運営ができる適正な人数を配置	○	○	○	○	○	○	<評価できる点> ・【3館共通】調布市の行政実務研修に職員を派遣するなど、芸術文化の専門分野に特化せず、市と緊密に連携した人材育成を図っている。 <課題点> ・【3館共通】アートマネジメント人材の育成においては、体系的な人材育成方針等によりノウハウの継承の視点も踏まえ、幅広い職員の意見も確認のうえ、計画的に取り組んで頂きたい。	・【3館共通】人事評価制度については、適切な運用が定着するまでに期間を要することが想定されるため、外部の専門家の知見の活用等も検討いただきたい。
	共通	指定管理期間が10年間になったことを踏まえた、長期的視点での施設の管理・運営や事業実施に関する職員のスキル向上（研修の実施や人事評価の実施状況等）に向けた取組が行われているか(★)	・令和元年度事業報告書P17 ・令和2年度事業報告書P16 ・令和3年度事業報告書P16	◆長期的視点での人的スキル向上 ・人事評価制度の導入（令和3年度～） ・芸術文化の専門知識と、経営管理スキルを併せ持つアートマネジメント人材を育成する研修 ・調布市への中堅職員の派遣研修 市の総合計画など基本的施策をふまえた事業展開につなげる	○	○	○	○	△	○		
	共通	指定管理期間が10年間になったことを踏まえた、長期的視点での職員間における専門的な知識やノウハウの継承への取組が行われているか(★)	・令和2年度事業報告書P16 ・令和3年度事業報告書P11～16	◆長期的視点での組織運営 10年という長期的指定管理期間内では社会情勢も大きく変化が予想される ・基本計画の見直しを令和3年度に実施 ・公立文化施設協議会の専門支援員による最新の文化行政に関する研修、助言の活用 ・職層ごとの研修で組織・人材力強化	◎	○	○	○	△	○		

評価の視点	評価対象施設	評価内容 (★：指定期間10年としたことを踏まえた評価実施)	評価材料	プレゼンテーション説明内容の概要 (説明のポイント、評価してもらいたポイント等) ※事前に指定管理者が記入	評価 (◎：優れている、○：標準的 △：改善余地あり ×：抜本的な改善が必要)						評価員コメント	
					A評価員	B評価員	C評価員	D評価員	E評価員	G評価員	現状における課題点	今後の取組の方向 (強みを伸ばす、弱みを改善する方策等)
施設の維持管理の内容及び手法	共通	修繕や点検等を適切に実施するほか、施設・設備の不具合等の早期発見、早期対応ができていないか。併せて、指定管理期間が10年間にわたることを踏まえた、中長期的な視点での施設の維持保全についての取組が市と連携しながら適切に行われているか(★)	・令和元年度事業報告書P17、61～63 ・令和2年度事業報告書P16、58～59 ・令和3年度事業報告書P16、57～58	◆施設・設備の修繕計画 ・ESCO事業の推進 ・施設の長寿命化、コスト削減の視点での提案 ・予防保全を重視し、不具合は早期発見・早期対応 たづくり年間修繕 約150件	◎	◎	○	◎	○	○		
	共通	利用者の安全対策を含む、緊急時（事故・災害・感染症）の対応策が十分検討され、マニュアルや連絡体制が整備されているか。また、定期的に訓練を実施しているか。訓練の結果、改善したものはあるか。これらの取組について、職員のみならず、関係スタッフも含めた対応が図られているか。	・たづくり自衛消防隊組織図 ・BCP（事業継続計画）	◆緊急時対応への備え ・救命技能講習の受講 館内関係スタッフ含め全職員 ・マニュアルの定期的な見直し ・BCP（事業継続計画） 危機管理マニュアル ・安否確認システムを活用した緊急参集制度	◎	○	○	○	○	○		
	共通	消火器やAED等の非常用装備について、定期的に整備及び点検がされているか。また、職員で取り扱えるよう訓練の実施やマニュアル等は整備されているか。これらの取組について、職員のみならず、関係スタッフも含めた対応が図られているか。	・令和元年度事業報告書P58 ・令和2年度事業報告書P ・令和3年度事業報告書P	◆消防訓練・消防設備 ・年2回の自衛消防訓練による防災知識向上 ・館内関係スタッフ含め全職員参加 ・消防関連資格の取得 自衛消防技術認定試験、防災センター要員など ・法定の消防設備点検実施 消火器、AED	◎	○	○	◎	○	○		
市との連携や市における施策推進への貢献	共通	災害時における市や地域等との協力体制の構築等に関する取組が行われているか	・令和3年度事業報告書P11	◆災害時の市や地域との協力体制 ・令和3年9月「災害時協力協定」を市と締結 ・避難所開設訓練を市と共催で年1回実施 ・調布駅周辺帰宅困難者対策協議会への参加 風水害時や帰宅困難者の一時滞在施設として積極的に体制づくりに取り組んでいます	○	◎	○	◎	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ・【3館共通】災害時における体制構築については、なるべく早く、「体制づくり」から「体制が整備された」段階へと進むことを切望する。 ・【3館共通】災害時協力協定の締結や協定に基づく市との共同訓練の実施など積極的に取り組んでいる。引き続き、指定管理者としての経験を生かし市への提言も含めて積極的に協力いただきたい。 ・【3館共通】国際交流の視点、多文化共生の視点を踏まえて、市の施策と連動した新たな取組が必要。 ・「映画のまち調布」を映画祭の期間以外でも感じられるよう、また市外まで認知されるよう、創意あふれる企画の実施、継続に期待する。さらに、必要な取組について市側へ積極的に提言していただきたい。 	
	共通	施設の貸出や各事業の実施等において、市への協力や市との連携に関する取組が行われているか	・令和3年度事業報告書P11	◆新型コロナウイルス感染症対策委員会として協力 令和3年6月から8月の2か月間、南北ギャラリー、むらさきホール、展示室を集団接種会場としました。	○	○	○	◎	○	○		
	共通	施設の管理運営や各事業の実施を通じて、市と基本計画における関連施策の推進に貢献できているか(★)	・調布市基本計画 施策17-1「映画のまち調布」の推進 ・令和元年度事業報告書P15、21～25 ・令和2年度事業報告書P14、19～23	◆調布市の基本計画関連施策への貢献 ・「映画のまち調布」の推進 ・調布シネサロンで名画鑑賞機会提供 シネマフェスティバルは市民による人気映画投票、映画スタッフの技術表彰による市内映画産業の振興	○	◎	○	◎	○	○		

評価の視点	評価対象施設	評価内容 (★一指定期間10年としたことを踏まえた評価実施)	評価材料	プレゼンテーション説明内容の概要 (説明のポイント、評価してもらったポイント等) ※事前に指定管理者が記入	評価 (◎：優れている、○：標準的 △：改善余地あり ×：抜本的な改善が必要)						評価員コメント	
					A評価員	B評価員	C評価員	D評価員	E評価員	G評価員	現状における課題点	今後の取組の方向 (強みを伸ばす、弱みを改善する方策等)
	共通	個人情報の保護及び情報漏洩防止のための体制は適切か	・令和3年度規則・規程集	◆個人情報保護と情報漏洩防止 【市民の個人情報取扱い義務の自覚】 ・財団の「個人情報保護規程」「情報公開規程」に基づき厳正に管理 【調布市監理団体・公益財団法人職員としての自覚】 ・情報セキュリティ研修の実施（令和2年9月）	○	○	○	○	○	○	<課題点> ・【3館共通】個人情報保護については、改正個人情報保護法（2022年4月施行）に基づき、適切な管理に努めて頂きたい。また、定期的な研修実施など職員への周知啓発を図っていただきたい。	
その他	共通	地域等との連携による取組や地域貢献活動の実施内容は適切か(★)	・令和元年度事業報告書P.26～27 ・令和2年度事業報告書P.25 ・令和3年度事業報告書P.23	◆地域との連携、地域貢献活動 ・調布よさこい（市民のふれあい・交流の場創造、商店街との連携） ・仙川駅前夜桜コンサート（機材貸出、機材オペレーター、実施協力） ・交流のかけはし（運営アドバイス、交流企画への支援、用具貸出） いずれの事業も10年以上にわたる地域との連携が続いており、指定管理期間が長期間になったことで持続的な協働が可能 ・調布駅前クリーン作戦への参加	◎	◎	○	○	○	○		
	共通	省エネルギー、省資源等の環境へ配慮した取組が確保されているか	・令和3年度事業報告書P.16	◆ESCO事業による省エネ効果 ・館内照明LED化 ・ペーパーレス化推進 ・業務のデジタル化	○	◎	○	◎	○	○		

- ◎評価結果(評価員からの主な意見)を踏まえた市における課題整理 ※今後のサービス向上等に向けての指定管理者との調整における視点
- ・【3館共通】利用者意見の効果的な収集及び利用者の声に対する適切な対応
 - ・【3館共通】それぞれの施設において培った経験やノウハウを活かした、3館連携の事業展開
 - ・【3館共通】若年層などあらゆる世代に関心を持ってもらえるプログラムの充実及び地域の交流拠点としての施設の有効活用
 - ・【3館共通】ファンドレイジングの取組強化や事業助成金の獲得の拡大等による財源確保と積極的な施設管理コストの縮減
 - ・【3館共通】中長期的な視点での人事戦略に基づく計画的な人材育成
 - ・【3館共通】指定管理者としての経験を生かし、市や地域等との災害時協力体制の継続的な構築・共同訓練等の実施
 - ・【3館共通】国際交流、多文化共生の視点を踏まえ、市の施策と連動した取組の検討・実施
 - ・地域共生社会の視点を踏まえた、だれもが芸術・文化に身近に触れられる機会の継続・充実